

印度雜記帳

連載三回目の今回はベナレスを飛び出し、インド北部のマニプール州での話です。

この話は僕が所属するデーターのサッカーチームにおいて、マニプール遠征企画したことに端を発します。サッカーチームはデリーを中心に、日系企業に勤める駐在員そして僕のような留学生を中心に結成され、週末の憩いとして集まる、いわば草サッカーチーム、その名は「FCキッカーズ」です。僕たちは真剣にサッカーをします。それと同時にサッカーを口実に運動後の打ち上げ、または週末プチ旅行を楽しむものまた事実でありました。

ある日のこと、チームでの週末プチ・マニプール旅行の計画が立ち上がりました。実は長年の間、マニプールは民族間紛争やインドでもサッカーが急速に

治安が安定しておらず、それが故に入域制限が行われ、外国人観光客が簡単に観光ができる地域ではありませんでした。しかし、その入域制限も一〇一二年によるやく解除され、また歴史的にマニプールの州都インパールは第二次世界大戦の際に「インパール作戦」の

舞台にもなった場所であ

り、ぜひ訪問しようとなりました。そして、一応はサッカー仲間で訪れるので、できれば現地の草サッカーチームと文化交流の一環としてサッカーができたらいいねと話は始まつたのです。ちなみに、インドでのスポーツといえば、クリケットが圧倒的な人気を誇ります。しかし、近年では印度でもサッカーが急速に

普及しており、また州ごとにチームを作つてプロリーグが始まるなど、大きな盛り上がりを見せています。

さてマニプール旅行の話は順調に進み、いよいよ二週間後の出発となつた二月初旬、何やらマニプール政府の観光庁が、我々の週末プチ旅行を全面的にサポートしてくれるとの

話を知りました。州政府からすれば、ようやくマニプールへの入域制限が解除され、これからは観光客を誘致し、州政府の収入源にしていきたい気持ちがあるのでしょう。しかし、我々

は二十人ほどの蹴球旅行団で、おもてなしに財布のヒモが緩くなるような人々ではありません。そもそも、マニプール訪問の目的は

21代表、ついに日本サッカーチームとの試合が実現!!

いせ・つかさ 1988年生まれ。同志社大学商学部卒。バラナシ・ヒンドウ大学観光経営学科修士課程修了。インド政府公認旅行業務取扱管理者及び日本にて総合旅行業務取扱管理者。「日本とインド、人をつなぐ」をモットーとした株式会社ジャパンディアを設立し代表を務める。旅行事業を中心、インドに関する各々の希望や相談一つひとつに丹念に応じている。

日本代表!? FCキッカーズ

そし
て、いよ
いよ今週

（次号につづく）

からの分離独立闘争のため、域制限も一〇一二年によるやく解除され、また歴史的にマニプールの州都インパールは第二次世界大戦の際に「インパール作戦」の

信を懸けたプロジェクト」になつていると聞かされ、今まで感じたことない動搖と困惑が我々「FCキッカーズ」を包むことになります。

さてマニプール州都インパールの州都インパールとしてマニプールドバイ遠征の中継地としてマニプールに立ち寄り試合をするとの話になつていています。



インパール訪問は地元紙にも報道され…



インパール訪問は地元紙にも報道され…